

卒業生との絆ニュースNo. 20 第2回東大 - 野村大学経営フォーラム

卒業生の皆様へ

今まで千葉大学に限らずどの国立大学も学部単位
の同窓会活動はあったものの、大学として卒業生との
交流は限りなく無に等しい状況だったことは疑問の
余地がありません。

そこで、千葉大学では、昨年6月から卒業生室を設
立して卒業生の皆様とのリレーションシップの構築
に努めています。この絆ニュースもその一環である
ことは皆様ご存知のとおりかと存じます。

さて、そんな千葉大学の活動を全国の国公私立大学
関係者に披露する機会がありましたのでご紹介しま
す。

文部科学省が東京大学・野村證券㈱に委託している
プロジェクト「大学の資金調達・運用に関わる学内
ルール・学内体制等の在り方に関する調査研究」の
公開フォーラムが去る1月30日（金）都内の会場で開
催されました。

会場には定員300名のところ、約320名が押し寄せる
盛況振りでした。参加者は主に学長、理事或いは幹
部職員など各大学の運営を担われている方々が多く、
このフォーラムに賭ける熱気が伝わってきました。

この経緯は、上記プロジェクトから事前にアンケ
ート調査やヒヤリングを受けましたが、それらの調
査結果から、卒業生とのリレーションシップ構築に
重点を置いて大学の活性化を図っている千葉大学の
活動が、国内では抜きん出ている存在であることを
知らされました。プロジェクトから、是非、千葉大
学の活動を全国の大学関係者に紹介していただい
たかとの要請があり、関係者のお役に立てるのなら
ば、と参加に至った次第です。

当日は、本学以外に東京大学・早稲田大学・文部科
学省がパネラーとして参加しましたが、本学は福島
健郎理事（総務担当）が千葉大学SEEDS基金や卒業生
室の活動を紹介しました。質疑応答でも千葉大学に
対する質問が多く、独立行政法人化、少子化或いは
昨今の経済状況悪化といった要因から、全国の大学
関係者が大学の運営や活性化に頭を悩ませている実
態を垣間見ることができました。

後日、プロジェクト関係者に連絡を取ったところ、
出席者から福島理事の説明がたいへん有益だったと
の意見を数多くいただいているとのことでした。

もちろん、我が千葉大学の活動もスタートを切った
ばかりであり、卒業生の皆様にとって不十分な状況
であることは認識していますが、千葉大学・卒業生
双方が良い関係を築けるよう努力する所存です。

最後に少し話は長くなりますが、当日も話題に出ま
した米国の大学事情について少し紹介させていただ
きます。最近高校生の中で「東大よりハーバード」
という言葉が合言葉になりつつあるようです。
一昔前までは考えられなかったことが起きています。

ところでハーバード大の年間授業料はいくらかご存
知ですか。年間：約33,000ドルで、これは他の米国
有名大学も同等の授業料です。日本円にすると100
円/ドルで換算すると330万円、4年間でなんと1,300
万円強となる高額授業料です。日本の国立大学の年
間授業料は50万円程度ですので、なんと6倍以上と
なります。

しかし、大学独自の奨学金制度が充実しており、学
生の能力に応じ奨学金の額に差がありますが、なん

と半数以上の学生が奨学金の恩恵を受け、学生一人当りの奨学金の平均受給額は約28,000ドルとなり、結果、学生が負担する授業料は年間5,000ドル強で、これは日本円に換算すると50万円程度と日本の国立大学の年間授業料とほぼ同額となってしまいます。

他の米国有名大学も同様の状況です。

日本にも米国にも国の奨学金制度がありますが、大学独自の奨学金制度に圧倒的な違いが生じているのが現状との事です。

また、日米の奨学金制度で決定的に異なるのが返還義務の有無です。日本学生支援機構（旧日本育英会）を始めとする日本の奨学金は必ず返還しなければならないものが圧倒的多数ですが、米国のそれには返還義務が生じないものが多いようです。米国の大学で卒業生からの寄附が盛んな要因がこのあたりにあるのかもしれませんが。

なお、当日の様子は
http://www.chiba-u.ac.jp/graduate/kizunanews/tnforum_pic.pdf
をご覧ください。